

エデュアルド・ミッソー二元世界事務総長からの祝辞（概要の和訳）

親愛なるトビー鈴木さまへ、

ほんの限られたスカウトだけが、人生で唯一のこのような特別な機会であります「ブロンズウルフ祝賀会」に、手紙で私の気持ちを述べさせて頂けることに心から感謝申し上げます。

最近の世界スカウト機構における一連の出来事に鑑み、私は、ご参列の皆様に、次のB Pの言葉を送りたいと思います。「最初に、私は一つの“アイデア”が浮かんだ。そのアイデアはやがて“現実”となった。そして、次第に大きな“運動”となって行った。もし貴方達の誰かがこの“運動”を注意深く見守って行かないと、最後にはこの“運動”は単なる“組織”と化してしまうであろう。」

B Pは当時から明らかに“個人的な関心”を、大変警戒していたことがうかがえます。権力と支配のための策謀や争い、鈍感な官僚主義はしばしば“組織”を支配することがあります。そしてそれは一般の加盟員の興味を追及することなく、やがて加盟員を奮起させる価値観に対する視野も失わせ、そして、次第に、始めの“アイデア”を失ってしまうことを、当時から懸念していたのです。

スカウト運動の本当の意味は、創始者が常に主張していた様に「我々は“運動”であり、“組織”ではない」、「我々は“兄弟愛”であって、“組織”ではない」そして、創始者の心に描くスカウト運動とは、「スカウト精神と不文律の忠誠心によって動くものであって、紙に書かれた規定や規則によって動くものではない。」という言葉です。

スカウト精神とは、創始者の言葉によれば、スカウト運動を推進させるための意思決定プロセスです。「我々は愛と立法を通して、この運動を治めなければならない。」という言葉です。

またB Pの言葉は、「スカウト運動をある期間経験したこと」と（たとえその経験が若者であれ、指導者であれ、各国連盟の役員であれ、世界レベルの役員であれ）「スカウトである」という言葉の違いを理解するのに役立ちます。今、スカウトである者（つまり、今、若者と接して指導をしている指導者）だけが、この運動に対し効果的に奉仕出来る者です。つまり、スカウトの“ちかいとおきて”の実践を日々の生活の中でベストを尽くして行える者のみが、このスカウト運動を作り出している概念を効果的に世界に広めることが出来るのです。

いかなるレベルにおいても、たとえある人が組織の中で公式に高い責任あるポジションについてたとしても、又は財政的支援で非常に顕著な支援を行ったとしても、もし彼の態度が「スカウト運動の価値」と「ちかいとおきて」を裏切るものであったなら、彼はスカウト運動に対し良

い奉仕をしたとは決して言うことは出来ません。

今日、私の親愛なる兄弟である貴方が、世界のスカウト運動に対する顕著な功績が認められ、ブロンズウルフ章を受賞されました。世界スカウト委員会の一員として、また、委員会の貴方の同僚として、一緒に仕事が出来たことを大変誇りに感じています。

スカウト精神では、このブロンズウルフ章は決して到達地点ではありません。しかし、単に個人の発展の一ステップに過ぎません。この章は決して特権でも階層組織の上の地位に押し上げるものでもありません。この章は、スカウト運動を、いずれは地域社会の模範となる様にするための、新たな行動責任を貴方にゆだねられたことなのです。

ブロンズウルフ章には例外はありません。世界中の何百万人ものスカウトと共に、貴方の人生が引き続き「ちかいとおきて」の価値観によって導かれて行くことを私は心から願っています。

私の立っての願いは、何百万人もの世界中のスカウトと共にこの価値観を共有し、「より良き世界を作る」という我々の共通の理想に向かって、皆で力を合わせて、この組織の壁を突き破って行くことです。その日が来ることを願って。

親愛なる兄弟へ。

エデュアルド・ミッソーニ
元世界事務総長